

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年1月17日 (2013.1.17)

【公表番号】特表2010-520924(P2010-520924A)

【公表日】平成22年6月17日 (2010.6.17)

【年通号数】公開・登録公報2010-024

【出願番号】特願2009-537387(P2009-537387)

【国際特許分類】

C 0 8 G 59/50 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 59/50

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年11月26日 (2012.11.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 8 2 】

エポキシ樹脂と脂環式ジアミン類の硬化反応を評価するために、示差走査熱量測定法 (DSC) を利用する。エポキシ樹脂をベースとするビスフェノール A (EPON (登録商標) 828、Shell 社から入手できる) をジアミン (本明細書では UNOXOL (登録商標) ジアミンと呼ぶ、1, 3 - および 1, 4 - ビス (アミノメチル) シクロヘキサンのシスおよびトランス異性体を含むアミン硬化剤混合物 (サンプル 1)、またはイソホロンジアミン (IPDA) (比較例 I) のいずれか) と、1 : 1 の当量比で混合し、硬化反応試験を DSC において 20 乃至 120、1 / 分の加熱速度で実施する。反応に対する加熱流動の温度が最高値に達する温度が硬化温度と見なされる。UNOXOL (登録商標) ジアミンと EPON (登録商標) 828 との硬化反応は 65 . 14 でピークを示し、これは両方のアミン基が類似の反応性を示すからであるが、イソホロンジアミン (IPDA) と EPON (登録商標) 828 との硬化反応は 69 . 75 および 93 . 69 で 2 つのピークを示し、これは IPDA 中の 2 つの相違するアミン基の反応性における差に一致する。この結果は、UNOXOL (登録商標) ジアミンが IPDA よりもエポキシ樹脂に対して相当に反応性が高いことを証明している。そこで、UNOXOL (登録商標) ジアミンを使用すると、IPDA より低温でエポキシ樹脂を硬化させることができる。

【語訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【表 1】

表1

特性	サンプル1 UNOXOL (登録商標) ジアミン 硬化エポキシ 1	比較サンプル1 イソホロンジアミン硬化エポキシ
接着 (重ね剪断応力、psi)	432	248
加水分解抵抗性	優れた外観	膨れ